

# 日本質量分析学会男女共同参画 第2回 ワークショップ アンケート集計結果

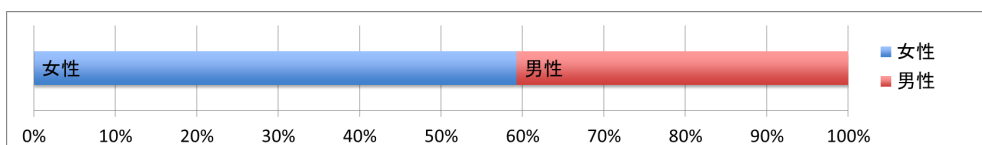
日本質量分析学会男女共同参画 第2回ワークショップにおいてアンケートを実施した。今回、アンケートを作成するにあたり、次の2つ点を考慮して質問項目を設定した。

- ① 参加者の背景情報を把握することで、どのような環境で仕事をされているのか、男女共同参画に対してどのようなお考えをお持ちなのかという事を正確に読み取る。
- ② 毎年同じ項目を繰り返し質問することで、意識や環境の変化を経時的に把握する。

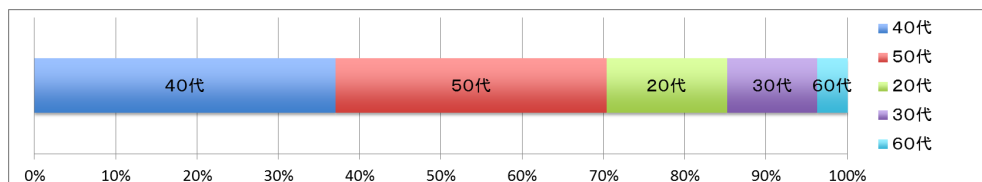
第2回の集計結果について報告する。 (回答数 n=27)

背景情報を把握するため、性別、年齢、職種ならびに所属機関、学会参加頻度の5項目を設定した。

Q1 性別を教えてください



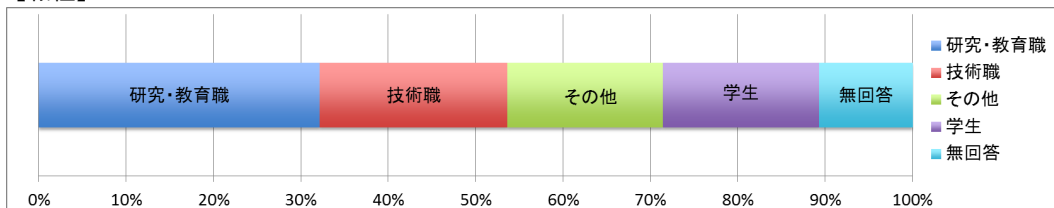
Q2 年齢を教えてください



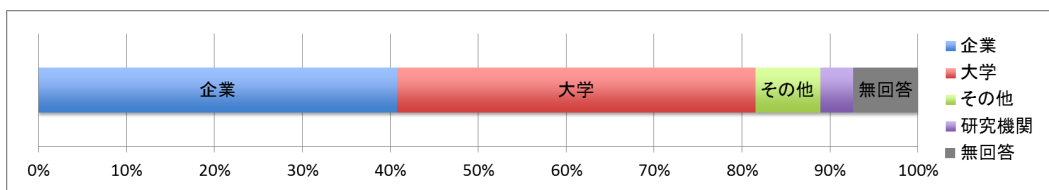
- ✓ 参加者の性別は男性と女性はほぼ同率の割合であり、年齢は40代、50代がほぼ同程度であった。

### Q3 職種と所属機関を教えてください

【職種】



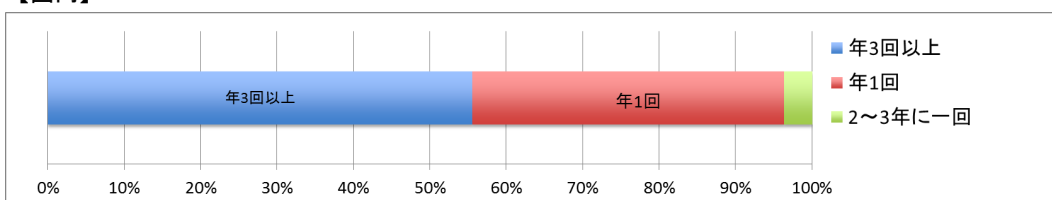
【所属機関】



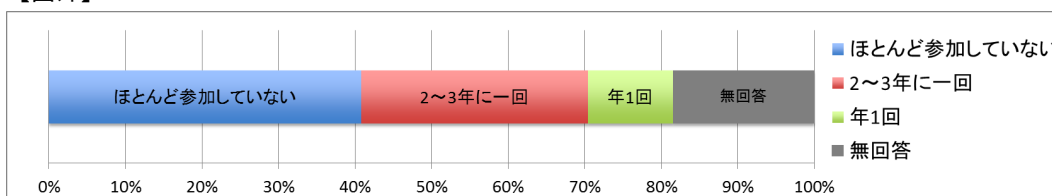
- ✓ 学会への参加者を対象にしているため、職種の50%以上が研究教育職・技術職であり、所属機関の80%以上が企業・大学・研究機関であった。

### Q4 年間の学会参加数はどのくらいですか？

【国内】

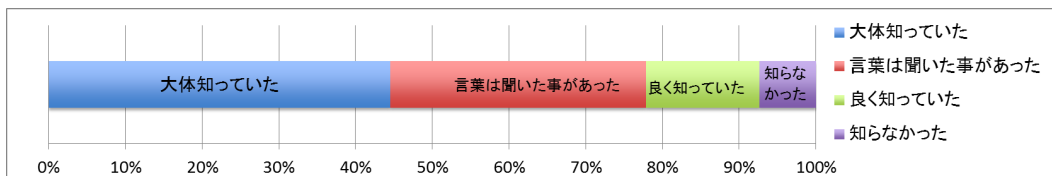


【国外】

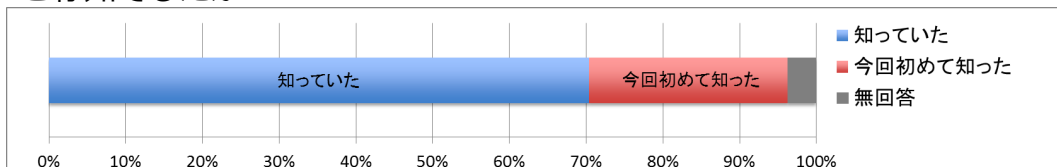


- ✓ 国内学会は、95%以上の方が年1回以上参加しているが、海外学会への参加者は年1回以上が10%程度に留まっていた。

Q5 これまでに内閣府や学協会が取り組んでおります男女共同参画についてご存知でしたか？

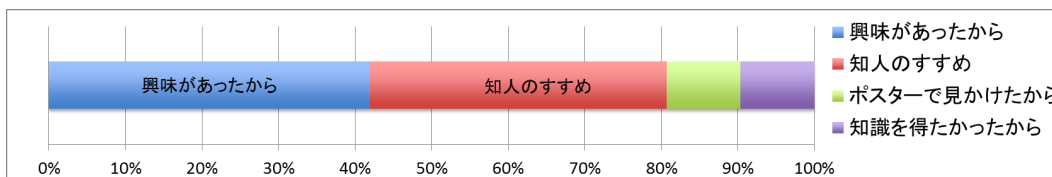


Q6 質量分析学会において、男女参画推進委員会が活動している事をご存知でしたか？

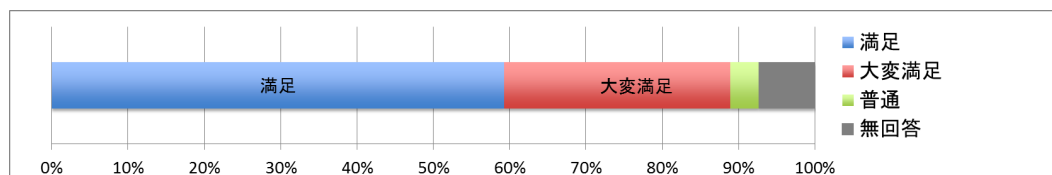


- ✓ 参加者の95%以上が“男女共同参画”という言葉を知っており、内閣府をはじめとする各組織や団体が様々な形で取り組んでいる成果の現われであると考えられた。
- ✓ 質量分析学会における男女共同参画推進委員会の活動に関しては、今回初めて知ったとの回答が25%程度であった。昨年は、認知度50%程度であり、大きく前進した。

Q7 このシンポジウムに参加された動機は何ですか？



Q8 シンポジウムの内容はいかがでしたか？



- ✓ シンポジウムへ参加した動機は、“知人の勧め”、“興味があった”、“ポスターで見かけた”という理由が90%程度であり、フロア活動や宣伝の効果があったことを実感した。
- ✓ シンポジウムの内容については85%以上の方が満足・大変満足とされており、高評であった。

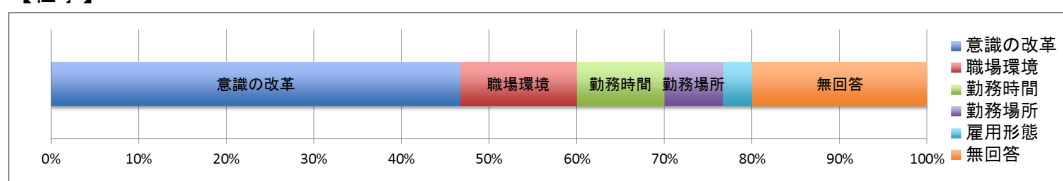
Q9 内容について感想をお聞かせ下さい

- ✓ 自分のワークライフバランスについて考えるきっかけとなった.
- ✓ 参加して良かった. 職場で内容を共有したい. 特に, 管理職に聞いてほしい内容であった.
- ✓ 普段あまり意識していなかった事柄について, 具体的な事例とその解決策を提示する形の講演のため, 大変参考になった.
- ✓ 学生の立場から, 社会にでたときに, イクボスイクメンなど, 女性が活躍できる環境が整っていると嬉しいと思った.
- ✓ イクボス大賛成! この当たり前の事に気付き, 意識改革ができることは極めて難しいと思った.

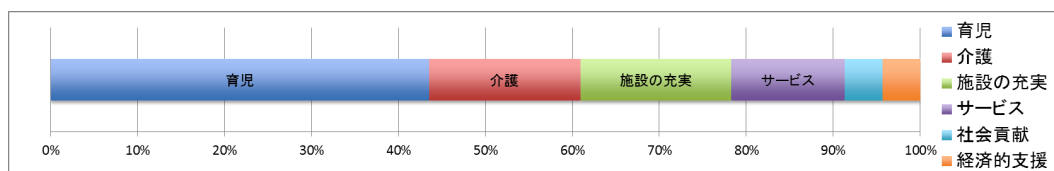
Q10 ご自身のワークライフバランスについて教えてください

理想的な働き方であるために改善したい課題はどこでしょうか?

【仕事】



【家庭】



- ✓ 理想的な働き方であるための課題として, 意識の改革が最も多く, 職場環境, 勤務時間の順であり, 昨年のアンケートと同様の回答であった. 育児とともに介護についても課題とされていた.

Q11 男女共同参画に関連したシンポジウムで希望する企画はありますか？

- ✓ 企業・大学での取組みの具体例
- ✓ 産休の代替職員についての議論をしてほしい、産休のバリアフリー

Q12 日本質量分析学会における男女共同参画推進についてご意見がありましたら、お聞かせ下さい

- ✓ より多くの方が聞けるプログラム構成になってほしい
- ✓ 次回も是非参加したい

**開催時期、開催時間帯、講演内容について多くの方より貴重なご意見を頂きました。社会進出、育児、介護などの課題に対して、多様な働き方が実現できるように、今後のシンポジウムの企画ならびに男女共同参画推進委員会の活動に役立てていきたいと思えます。**

アンケートにご協力頂き、ありがとうございました。

Q9 内容について感想をお聞かせ下さい（続き）

- ✓ 研究職は大学時代からの昼夜問わず没頭する事で大きな成果が出るという神話なり言い伝えがあるため、それが社会人になっても抜けないと思われる。「研究職」の特殊性も問題だと思った。
- ✓ 専業主婦の家庭にいる男性の意識を変える事は難しいのではないか。
- ✓ 増々女性の社会進出や夫婦共働きが主流になる中、ワークライフバランスは組織形成のため、人材の長期的確保のために重要な考えであると感じる。従来の企業の人材意識は「個人」ではなく「コマ」としての人材であるという事を強く感じていた。「ワークライフバランス」は重要視するべきことだと思う。
- ✓ パネルディスカッションでは、予めテーマを設定し、みなさんで議論できる場にできればよかったと思った。